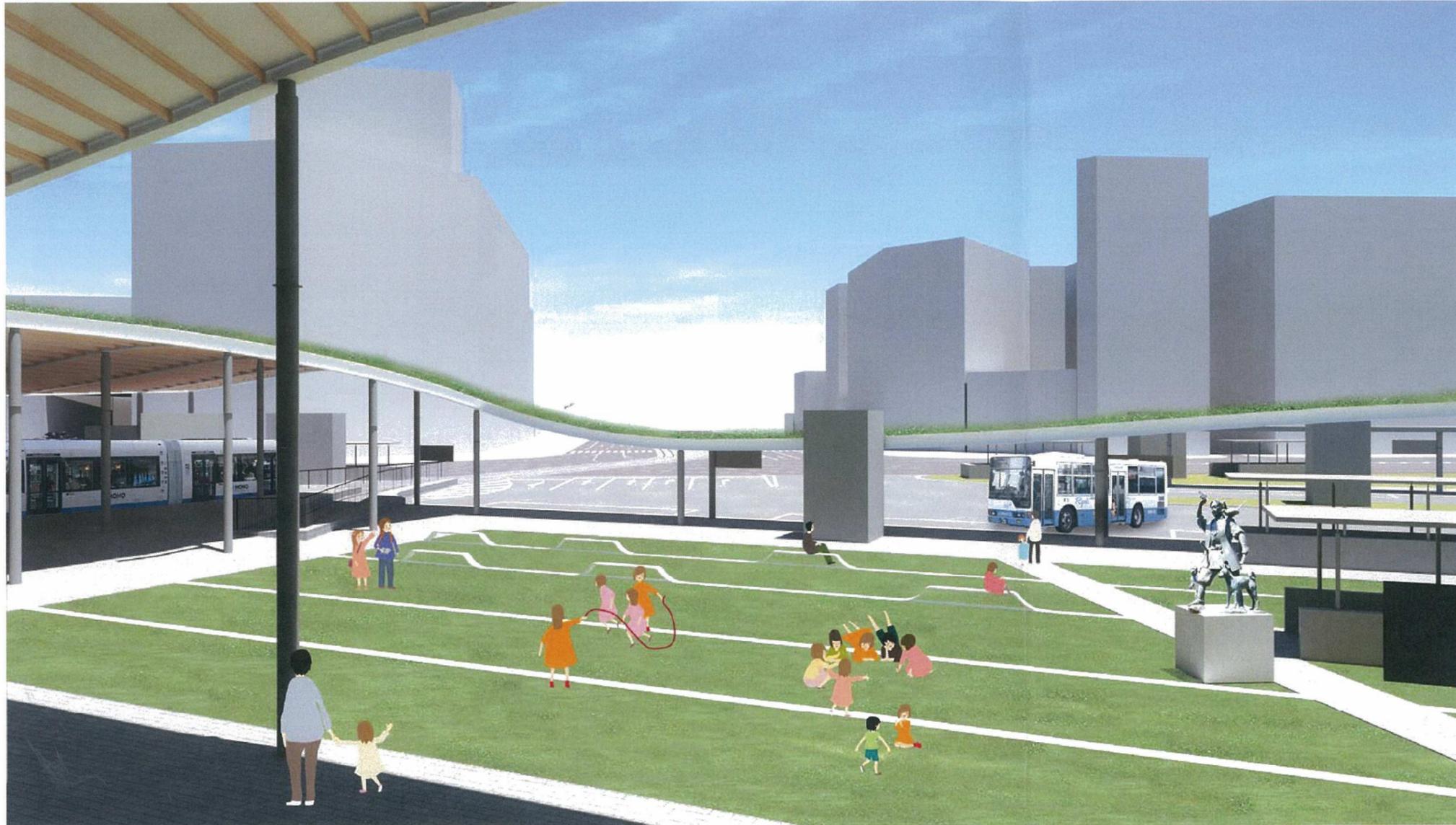


特定テーマ1に対する企画提案

04 面積を有効活用したイベント広場



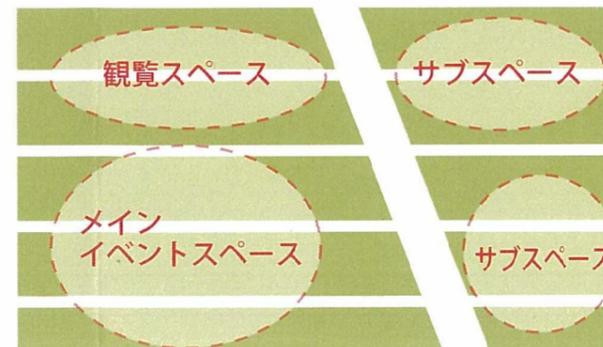
市民活動の中心となる「はじまりの丘」

イベント広場となる「はじまりの丘」は、芝生が施された緑の屋根と緑の絨毯によって形成されます。はじまりの丘では、市民による多様なイベントが催され、新たな市民活動のはじまりを演出します。案内掲示板などは総合案内所に集約し、植栽帯は移設することで、イベント時の妨げとなる設置物をなくします。その他のサインは緑の屋根を支える支柱に備え、広場の有効面積を最大限にします。



広場のゾーニング

さまざまなイベントに対応できる有効面積と、子どもでも遊びやすい凹凸の少ない見通しの利く広場を確保します。観覧スペースとして位置づけたベンチエリアは休憩場所、待ち合わせやランチなどさまざまな利用が想定できます。屋根デザインの延長線上にベンチをデザインすることで、路面に設置してもデザインの一体感を損ないません。



桃太郎像と景観軸の関係

桃太郎像はもともと桃太郎大通りを見守るよう設置され、岡山駅のランドマークとなっていました。今後の計画においても桃太郎像は岡山駅のシンボルとして存在するように、景観軸状かつ、はじまりの丘の中心に設置します。

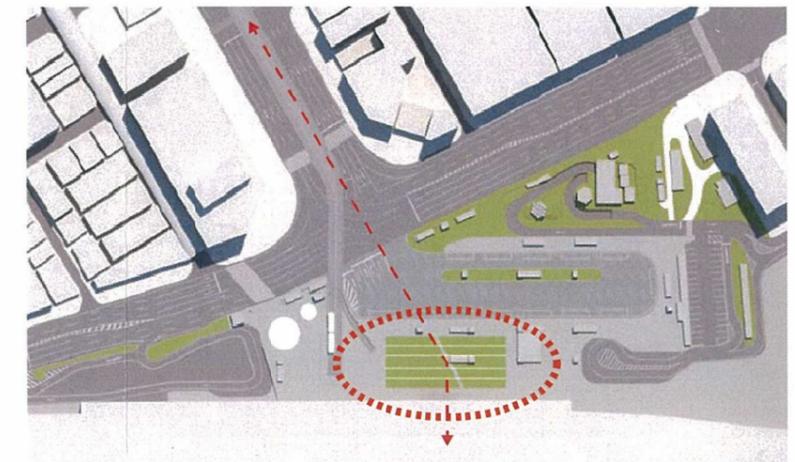


イベントと景観軸の関係

東西連絡通路の正面に位置する「はじまりの丘」は、来訪者を桃太郎像やイベントで迎えるだけでなく、桃太郎大通りへの景観軸と連続することで駅前の賑わいを周囲に溢れさせます。冬季のイルミネーションはこれまで以上に周辺へ向かって輝き、広場に集まる老若男女の賑やかな様子が見取れるようになります。駅前の賑わいがあたりへ伝染し、ひいては駅前周辺の活性化へ繋がることを期待し計画します。



桃太郎大通りからみるイルミネーションのイメージ



桃太郎大通りと岡山駅を繋ぐ特別整備エリア

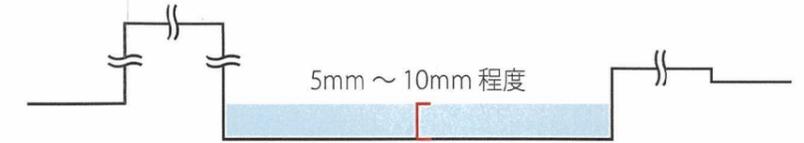
特定テーマ1に対する企画提案

05 大通りと商店街への起点となる水辺空間



水盤のようにきらめく浅い噴水

設置する噴水は安全面や機能面を考慮し、水面の浅い仕様を想定します。太陽が気持ちのいい季節には子どもたちが水に触れあえるようにします。噴水の端は場所によってベンチとなり、憩いの場を形成します。夜間はライトアップし、駅前広場の玄関口として人々を誘導すると共に、視認し易く魅力的な待ち合わせ場所としても機能します。



イメージ写真(東京駅)



イメージ写真(島根県グラントワ)



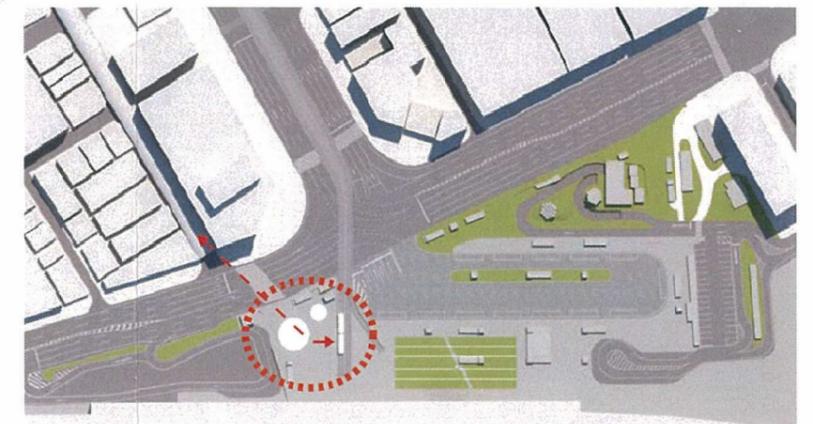
あつまる水辺の夜のイメージ

駅前商店街と岡山駅を繋ぐ「あつまる水辺」

路面電車が駅前に入り込むことで、商店街や桃太郎大通りへの歩行者動線の変化が懸念されますが、本計画では、駅前広場を分割するように路面電車が入り込むため、商店街に面した広場が自動的に形成されます。この広場をただ歩行者が通過する道ではなく、人が集まる場として位置付け、岡山市の豊かな水源をモチーフにした噴水と待ち合わせベンチを設け「あつまる水辺」と呼びます。

新たにデザインされた水盤のような噴水は市街地からのランドマークとなるだけでなく、駅前商店街を含めた市街地へのアクセスの起点となります。

また、噴水の水をあげば広場としても活用でき、サブイベントスペースとしても活躍します。活動的な場としての性質をもつ「はじまりの丘」に対し、「あつまる水辺」は憩いの場としての性質をもち、デートの待ち合わせや、夏場の休憩場所として活躍します。



市街地への誘導起点になる駅前広場の玄関口

特定テーマ1に対する企画提案

06 市役所筋の新たな景観を創出する「ながめる森」

市役所筋から訪れる市民の憩いの場

市役所筋はオフィスビルが立ち並ぶ中にも大きなショッピングモールもあるなど様々な人の往来が想定されます。そういった人々を駅まで迎え入れるためには、やさしく受け入れる受け皿が必要と考えられます。岡山を象徴する後楽園のように自然豊かな佇まいと併せて、小さな人だまりをつくりつつ駅への動線が分かり易いように計画します。



市役所筋の顔となる「ながめる森」

修景ゾーンには、岡山市の樹木を植え「ながめる森」を創出し、換気塔や地下駐車場等の目隠しとしながら、市役所筋に対し緑豊かな景観を与えます。横断歩道の新設により歩行者の利用の増加が見込まれるため、歩行者の動線に合わせ、自然に調和するベンチ等を設けます。ながめる森は、市民が岡山市らしい樹木と出会う場所となります。

歩行者を迎える駅前広場玄関口

岡山駅前道路に対して歩道が無く、歩行者の駅へのアクセスは限定されています。「あつまる水辺」同様に修景ゾーンにおいても、駅前広場の玄関口として特別な佇まいを目指さなくてはなりません。



駅への歩行者主要出入口



現状は駐輪場入り口としての印象が強い

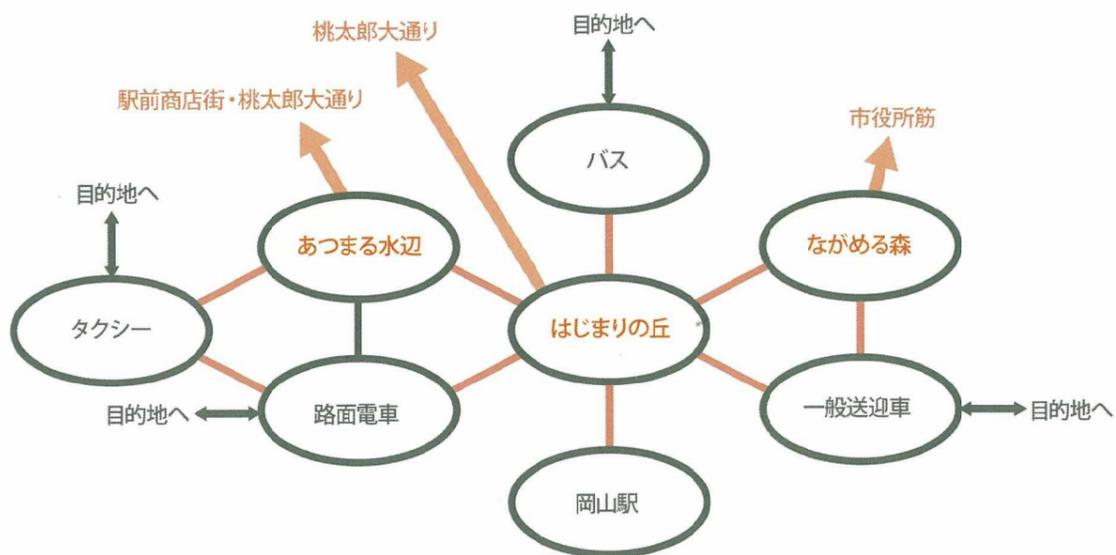


岡山市らしい樹木と出会う「ながめる森」

特定テーマ2に対する企画提案

01 歩行者動線を整理する3エリア

「はじまりの丘」「あつまる水辺」「ながめる森」という駅前広場の核となる3つのエリアを提案しました。それらは岡山駅が桃太郎大通り、市役所筋、駅前商店街といった周辺環境に接続するための媒体として機能します。そこに「路面電車」「バス」「タクシー」「一般送迎車」が乗り入れ3エリアと融合することで、歩行者動線が自ずと整理され、歩行者優先の駅前広場として成立します。



02 色調で図るサインの視認性アップ

現状の岡山駅前広場の問題点として挙げられるのは、視認性の低いサイン計画です。視認性の低さはサインのサイズと数だけに起因するのではなく、色調の統一感の欠如もサインを埋没させている一因です。

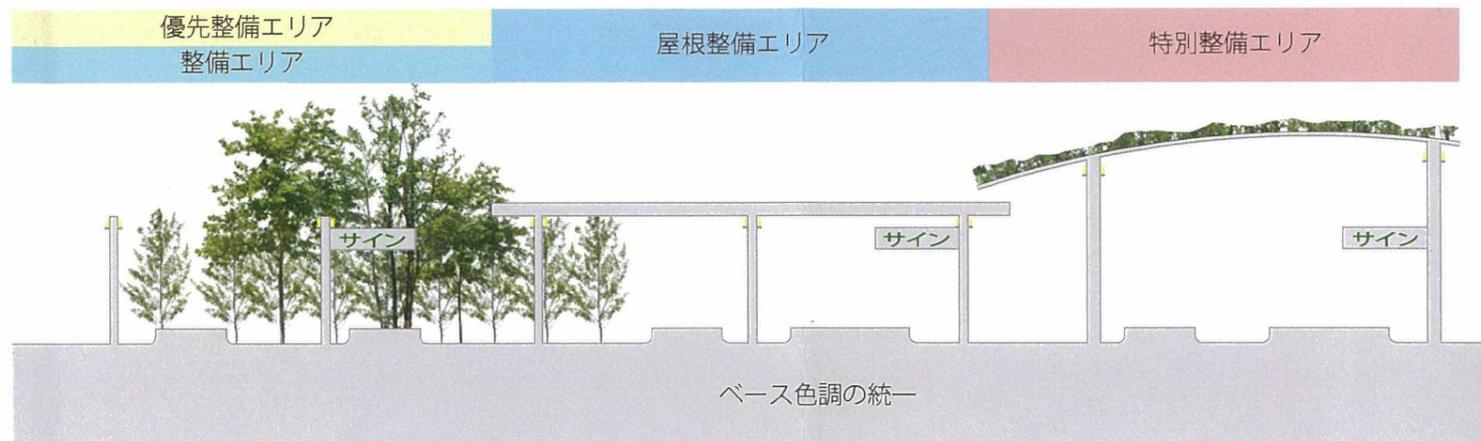
新しい岡山駅前広場の要となる「はじまりの丘」「あつまる水辺」「ながめる森」の3エリアに新設する建物や既存工作物、舗装は、ベースカラーを落ち着いた色調で統一することで「見せるべきもの」が見え易い環境に最適化します。同時に既存利用を検討し、効果的なコスト計画を検討します。



広場整備のバランス

03 一貫性のある空間デザインとサイン計画

現状の岡山駅前広場のサインは、舗装面に自立して設置されている看板や屋根面に吊られている標識があります。色調や形状、配置ルールにおいて、一貫性は見受けられません。本提案では空間デザインとサイン計画を連動させ、その表示方法にルールを設けます。歩きやすく、わかりやすいサイン計画をめざします。



04 すべての人にやさしい交通アクセス

